説苑

道路改良會首腦部と道路問題の推移

―常務理事佐上信一氏（下）―

清水生

南獨逸を描寫

更に筆者は佐上氏が數多く種々の雜誌に寄稿してあるうちに不圖「道路見物ストラースブルヒの思出」と題する記事を見つけて讀んでみたが、實に却々の美文で面白くエルザス・ロードリンゲンの首府であるストラースブルヒの情調を描寫してゐるので知らず〳〵の間に一意氣に讀んでしまつたが、氏は先づ始筆において。

數日の滯留に旅塵を拂つたバーテン・バーデンの溫泉場を出發してエルザス・ロードリンゲンの首府なるストラースビルヒに行くことゝした。バーテン・バーデンの雨の景色も捨て難く雨脚ペーブメントの上を躍る間を自動車を疾驅して停車場に向ふ。田舍のホテルは番頭に至るまで使用人の頭が低い。吾等が自動車の影を沒する迄戸口に佇んで……左樣なら、道中を御無事に……など別

れの言葉を口々にハンカチーフを振つて居る。假の宿とは云へ、後に心が惹かれて再遊の念が自から湧いて來る。と云つてゐるが、玆で筆者は我國のホテル・旅館等についても、かやうに親切でありたいものと痛烈に感じたのである。昨年の如きは筆者は、殆んど毎月地方に旅行を試みたが、此頃のホテル・旅館といふところは到るところ無愛想である。人間は感情の動物である以上不愉快の感を起さずには居られない。殊に最近ではこの傾向が激しくなつて來るに鑑みて、獨逸のホテルのこのやうな親切振りには旅行者にとつてはうらやましい感を起させるのである。餘談は偖て置き氏の筆は更に進んで。

汽車はケールに到着した。ケールは萊因川を隔てゝストラースブルヒと相對する町で、萊因川には萊因橋が架つて居る。雨はストラースブルヒあたりで晴れた。萊因橋を渡つてス市に至る間は今は何等の交通機關もないので、雨に濡れて道路を徒歩で行く外はない。佛蘭西は多年の希望を達してエルザス・ロートリンゲンを自國の領土に恢復するや先づ第一着手として從來の道路標識を佛蘭西風に變更すると同時に、哩程標の如きも全く佛蘭西の石標の頭を赤く塗つたものに變更して、之に巴里から起算してストラースブルヒに至る哩程を記入した。

と、氏は道路標識のことに及んで、次いで。

此の如きは一面佛蘭西人が他國人から動もすれば神經過敏なりとの評を受くるに値する遺方ではあるが、又一面には如何に佛蘭西が道路を尊重し、道路標識や哩程標の變更に依つてス市在住者を佛蘭西化することに努力しつゝあるかを示すに足るものと云はなければならぬ。

と、氏は玆にエルザス・ロートリンゲンの地は久しく獨逸領に屬して、獨逸がこの地を獨逸聯邦の直轄として各種の施設をなし、以て獨逸化に努めた土地柄であるから再び之を佛蘭西化にすることは却々容易の業ではないことを繰々と書いて、更に筆は彼の獨逸が生んだ詩聖ゲーテーの學生時代に住みし所に及んで。

詩聖ゲーテの住むだ家

アルト・フシュ・マルクト街には獨逸の詩聖ゲーテが學生時代に住んだ家がある。第三十六番戸の二階には金屬板の標札を掲げ、之に……千七百七十年より千七百七十一年迄ゲーテ玆に住めり……と記されてある。極めて粗末な二階建で階下はコルセットを賣る商店である。都市計畫施行の際、此の個所改修が問題となつたが、此の如き由緒ある家屋を破壞しなければならぬと云ふことは遺憾な次第であると云ふので、此の部分だけ今に狹いまゝに殘されてあるのも奥床しい限りだ。之が日本であつたなら史蹟であらうが、名勝であらうが、神社であらうが、寺院であらうが、道路改修の前には何等存在の價値を主張することを許されぬのであらうが。諸外國では此等の點は仲々うまく行つて土木事業と史蹟との關係が程よく調和を保たれて居る。

と、氏は書いてゐる。玆で多少餘談に亙るが、氏のこの意見を聞いて實に共鳴禁ずる能はずである。その一例として筆者は屢々所用あつて神戸に赴くが、湊川神社に參拜して、往昔大楠公とその一族の徹底した忠君愛國の崇高なる大精神は、實に千秋萬古に亙つて我が國民を感奮興起せしめたことを思ふと同時に鳳洲が、

曾回天日掃妖氣　難奈中原飛蝨群
今日來過兵庫驛　秋風洒淚拜高墳

と云つた、あの楠公自刄の地……嗚呼忠臣楠公之墓が今尙嚴然としてその史蹟を誇つてゐるに拘らず、如何に神戸市の發展のためと謂へ他に良策を見出すことが出來るに拘らず、當時の縣當局者の低能なる頭腦が……楠公が菊水の旗をなびかせて僅かに七百餘騎を率いて雲霞の如き逆賊高氏の大軍に當り、賊軍をして慄懼せしめた古戰場、あの湊川を取り壞はして仕舞つたのは國民の精神的感化に影響を及ぼすこと大なると共に、我が國民が萬世に誇るべき史蹟をなくしたことは頗る遺憾に堪へないのである。筆者は神戸に赴くと必ず、

休將成敗品英雄　義勇如公誰得同
弔罷忠魂孤立久　夕陽低處聽松風

拙齋の作詩を思ひ出して、數十年前の湊川は老松青々と生茂り、天上川を流るゝ清水を見ては、大楠公がこゝで戰つた往昔も尙ほこのやうであつたのであらうと回想して、感慨無量であると共に稀世の大忠臣を忍んだのであるが、今は既にその片鱗さへなく、低級なる雜沓の地と化して居る。誠に行政者は單なる皮淺なる考へを持つて一國の貴き史蹟の如きを蹂躙して仕舞うことは痛憤に堪へないのである。落合直文氏が、

湊河原の夕景色、忠義一途に跡とめて、水の流れと菊水の、紋にさかまく水煙、音も數萬のときの聲、きけばきくほど物すごし、思ふ建武のそのむかし、君が末期の血の涙。

と追懷した貴き史蹟は今何所に在るか……これを求めやうとしても殘念にも現在は跡形もない有樣である。

街路名又は町名は重大に取扱ふ

更に氏は、我國と比較して獨佛等では一街路名にしても町名にせよ重大問題として取扱はれてゐることを述べて。

ストラースブルヒの町名街路名にしても、獨逸領有時代に附せられたものは佛蘭西領となつて以來殆んど悉く之を變更して居る。中には獨逸名の上に線を引き、其の側に佛蘭西名を書いて居るやうなものもある。獨逸領有時代には皇帝通り「卽ちカイザーアレー」と云ふ名を附せられた街路は、佛蘭西領となつてから自由通り「卽ちアレードラリベルテー」と變更されたなど面白い。之に依つて見ても街路名町名等は我が國では比較的輕く無頓著に取扱はれつゝあるやうであるが、彼にあつては可なり重大問題として極めて愼重に取扱はれつゝあると云ふことが知られる。

我國でも近時彼のシンガポールを昭南島に、其他大東亞戰爭の結果彼れの命名を變へたところが處々にあるが、かやうなことは些細のやうでも一國の國民的精神の感化に及ぼすことを思ふと深く考慮するの餘地がある。最後に氏は。

ストラースブルヒと同樣であるが、獨逸の大小の都會は舊時に於ては多くは王城を中心として其の都市計畫を

遂行して居る。現にストラースブルヒの如きも、王城を中心として王城廣場を隔てゝ壯麗無比の大學の建物がある。此のあたりが所謂都心になつてゐるのである。然るに現代的都市にありては其の都市計畫を遂行するに鐵道停車場を中心とする風が盛になつて來た。鐵道停車場の附近には之を中心として立派なる旅館が擔を連ね、大小の店舗は之を環つて建てられて居る有樣である。我が國では鐵道停車場附近の宿に泊ることは安宿に泊ると云ふことの代名詞になつて居るやうであるが、彼にありては全く之と事情を異にして居るものも珍らしい。名高き寺院の殿堂や珍奇なる髮飾を爲せるアルサスローレンの婦人に驚きつゝ再び萊因橋を渡りて獨逸領内に歸れば、萊因の流れは滔々として晝夜を捨てず、之を狹むで解くることなき恨を懷ける獨佛の兩國が永久に勝ちつ敗れつして相對峙せるを見て、人類の平和の何時來るかと斷定し難いやうな心持がする。ストラースブルヒの道路見物も獨佛の樣々なる對抗に興味を創がるること少なからず、

其の日の夜の汽車がフライブルクに到着して枕の下に綜々なる水音を聽きながら靜かなホテルの一室に横たはつて、初めてホツト息をついた。

と佐上氏はかやうに書いてゐる。

爭奪の地エルサスロートリンゲン

勿論佐上氏がこの地……エルサスロートリンゲンに遊んだのは既に十數年の以前であり、從つてその思ひ出の記もその當時書いたのであるから、現在とは多少その狀況も違つては居るだらうと思はれるが、併乍ら氏が云つてゐる如くこの地は多年獨佛爭奪の問題の地であつて、これが經緯を見ると、獨逸が彼のビスマルクとモルトケの天才的二人物を擁して、全獨逸が千八百七十年から同七十一年に亙つて對佛戰に出動したが、彼のビスマルクの有名なるエムス電報。氏の政治的術策は近隣諸國卽ち英國、ロシヤ、デンマークの中立を確保して强ひられたる戰爭を行つてゐる。プロシヤ救援のためにオーストリア以外の全獨逸民族は一丸となつて佛蘭西に當り、その卓越せる戰略戰術によつて

輝かしい迅速なる勝利をプロシヤに齎したのであつたが、早くも千八百七十年九月二日には佛蘭西軍の主力が、セダンに於いて包圍され皇帝ナポレオン三世もその時に捕へられたのであつた。この普佛戰爭は決定的にプロシヤの指導に依る獨逸の統一を完遂すると共に、彼のフランクフルトの平和條約に於て佛蘭西はこの地、即ちエルザスロートリンゲンを獨逸に返還したのであつた。而してこの地は獨逸帝國領となつて、皇帝を代表する總督に依つて統治されることとなつたのである。然るに世上の變遷は面白く曩の世界大戰では獨逸は四箇年間勝戰を續けながら國内の敵、即ちユダヤ人、フリーメースン及びマルクス主義に依つて遂に倒れてコンピエーニュとヴェルサイユとは獨逸にとつてはその後に於て苦むべき苦難路の最初の宿場であつたのである。ヴェルサイユの一大詐欺は千九百十八年一月八日にワシントンに於てのウイルソンが平和教書の中に宣言したる、彼の十四箇條綱領によつて誘導せられたのであるが、そのうち「佛蘭西が千八百七十一年プロシヤによつてエルザスロートリンゲンに加へられたる不正の賠償」とあるに依つて再び獨逸から佛蘭西がこの地を奪取したのである。而して今次の大戰は佛蘭西の降服、停戰協定後の獨逸は、佛蘭西に對して一方的なる意見を持つて獨裁を決行しようとはせず獨佛協力して以て歐洲新秩序の建設に向つて邁進せんとする意圖を有してゐるやうに見へるのであるが、ラヴアル政府主席は……如何なる恫喝を余を對獨協調政策から引離すことは出來ぬ……と言明して佛蘭西の對獨協力の本格化を明示して居る。獨佛提携はその内容に於て占領地及び非占領地の境界を開放して、非占領地からの石炭、食糧、鐵、その他の商品の流入を認める所謂經濟交通の復歸及び獨軍占領地における佛國負擔の輕減、その他を主要内容として居るのを見れば獨逸側の讓歩が多分に見られるのである。殊に佛蘭西はこれまで軍需資材としての鐵鋼にはロートリンゲンに於て米獨蘇英につぐ生産高をあげてゐる程であるのに鑑みて、今後大戰終結の上に於ては佛蘭西の領土保全問題と共にエルザスロートリンゲン一帶に亙る地

方はどうなるか頗る注目せらるところである。

防空と總力戰

偖て現在佐上氏は財團法人大日本防空協會の幹部として決戰體制下の民間防空事業の指導的重大職務に鋭意之れが整備と完成に努めつゝあるが、防空力の强化は如何に絶對必要であるかは今更に贅言を要しないところであるが、東部軍司令部參謀の山本中佐は、最近に於て、

大東亞戰は愈々本格的段階に入り、長期戰の樣相を呈するに至つた。從つて國家總力戰の形は益々明かとなり彼我共に第一線部隊に於て必死の戰鬪を行ふ外、長期戰の根元を覆す爲、國內の生產資源の潰滅、國民思想の弱化を企圖する樣になつて來た。從つて第一線の戰鬪が停頓するにつれて、本土が狙はれることは當然であつて、近代航空機の驚異的發達は益々之が實施を容易ならしめるに到つた。故に吾々はこれから愈々敵の本格的空襲を受けるものと覺悟せねばならぬ。云々。

と云つてゐるが如く、全く玆に我が同氏の鐵石の如き反抗意志と巨大なる覺悟とを持つて敵米英と戰ひ拔かねばならないのである。山本中佐も總力戰を强唱して居るが、前の世界大戰に於て當時同盟軍の參謀長として所謂、その總體戰爭を直接指導したる獨逸の名將ルーデンドルフは、彼の名著戰爭論に於てかやうに云つてゐる。

顧みれば獨逸は千八百六十四年から同六十六年まで、更に千八百七十年から同七十一年の戰役と戰つたのであるか、最初の二戰は純然たるクラウゼヴイツツ流の舊式戰爭であつた。只千八百七十年から翌年に亙る戰役に於て佛蘭西側のガンベツタの指導下に行はれた戰爭は近代戰的な形態を呈して、當時の獨逸軍は事實この豫期しない新時代的なる戰爭に當面して聊か狼狽したのである。

とル將軍は過去の戰爭形態を縷々述べて。

然るに前世界戰爭は過去百五十年間の總ての戰爭と全く異る性質を現したのである。卽ち參戰諸國の軍隊は各々その相手の軍隊の殲滅に努力したのみではなく、國民全體も亦戰爭遂行の作業に深く關係して戰爭行動は直接

國民一般にも課せられ、國民自身も戰爭の困苦を直接に體驗したのである、斯くて軍部と國民は一體となつて、その間には明確なる區別はなく文字通りの總體戰爭となつたのである。

と彼は第一次世界大戰と總體戰爭との關係を說いてゐる。

東湖先生とル將軍の總力體制

更にルーデンドルフ將軍は、細密に亙つて總體戰……總力戰の本質及びその特色について云つてゐるところを見ると、

總體戰……總力戰の特色は著しく國民の精神力を必要とするのは勿論であるが、就中國內の凡ての人的、物質的、並に資源、……特に有ゆる方面に必要な精神力を戰爭遂行のために極度にまで利用するを要するのである。光輝ある國軍もその立つ礎石は實に全國民の人的及び物質的、殊に精神的全般の極度の奉仕に依存せなければならないのである。「防空完壁を銃後に期するが如き換言すれば飽くまで國民銃後の戰士であることを要するのである。かくて國民全體の全努力を必要とする點が、この總體戰總力戰の本質である。

と云つて、而してル將軍は戰爭と政治、國民生存權と總力戰との關係を、現在では戰爭に政治も一つの理想の下に國民の生存のために行はれるものであるから、從つて政治は戰爭指導に追隨すべきものである。更れは政治戰爭の兩戰略の一致と云ふが如き、兩者の對立を基調とする論法は既に古い過去の理論となつて仕舞ひ、國民生存權を擁護し且つ平時戰時を通じて總體戰の要求に對應する政治こそは現在または將來の政治であり、戰爭指導に適應する政治である。夫れは兩者こそ國民の生存權の擁護たり得る共通の目標を有してゐるからであると論じてゐるが、要は總體戰……總力戰形態を充分發揮したる國家でなければ近代戰に於ては當底戰ひ拔き最後の勝ちを占むることは絕對不可能なることを、ルーデンドルフ將軍が有ゆる角度から說いて總力戰に對所すべき必須條件を槪說してゐるのは吾々の大いに參考とすべきである。……寶力染め難し攘夷の血……と

叫んだ藤田東湖は、既に安政元年に。

墨夷辭し去つて僅に三旬。鄂虜又窺ふ西海の濱。銃を鑄、船を造るは常事のみ。民と共に死を致すは果して何人ぞ。

と歌つたのは國難愈々加重するを洞察した東湖は、銃を鑄船を造る國防のことは聊も未だと感じたのであるが、民と共に死を致す總力體制があつてこそ外難を攘ふことが出來る所以を喝破して、この詩の言外に總力體制の必要を說いて外難擊攘の基礎であることを指導してゐるが、誠に先覺者の國家に對する意見には敬服するのである。

デンリンカーとガリーの日本空爆論

嘗て敵米國の軍事評論家であるデンリンカーと海軍少佐リーガは……太平洋戰爭……と題して敵米國側から觀たる日米戰爭を今から七年程以前に共著出版ゐるが、これを讀んで米國は如何に日本と戰ふかを卒直且科學的に說破してゐることは、決して他山の石として看過出來ないとの感を抱かせるのである。夫れによると。

日米戰爭はこれを地理的、政治的、社會的、心理的、經濟的の各角度からみて勢ひ長期消耗戰となるを免れない。

と所謂現在決戰體制下における長期連續的消耗決戰であることを冒頭して。

米國は日本を封鎖することは困難であるが、日本は島國であるから、英國を除けば、他の國よりも海上からの封鎖に對して最も脆弱性を持つてゐる。日本のよつて立つたのは海上貿易である。故に若し其の海上貿易……輸送を杜絕させるならば日本は忽ち屈服するの外はない。然し實際問題としては、日本に對する封鎖は長き時日と非常なる困難とが伴ふ仕事である、而して封鎖はこれを過當に行へば、比較的少き犧牲を以て陸上戰爭の大勝利にも優る效果を收めることが出來る、封鎖は戰爭用材を固渴せしめ、士氣を弱め、飢餓に惱まされる結果となつて、日本戰線の將卒が如何に强くても畢竟屈服せざるを得なくなる。前の大戰に於ける獨逸が其の最もよい例で

ある。而も獨逸は日本以上に自給自足であつた。

と、日米戰爭に於ては畢竟經濟戰の優秀が戰爭の結果を左右するに重大なる鍵であることを論じて、物資を大陸から仰がねばならない島國日本の國情を指摘して、封鎖と日本國內の重工業地帶の空爆は絶對必要なることを强唱して。ゐる。即ち

日本は空爆を最も恐れてゐる、このことは空中防禦に關する大規模の施設からこれを推知することが出來る、日本は內地の安全と國民の生命について空爆に對して最大なる脆弱性をもつて居る、現に極東方面にある蘇聯陸軍の一指揮官は最近三千噸の爆彈を以て一擧にして日本の重要港灣の諸施設又は交通機關を破壞して、東京の如きは大震災當時の如く破壞する事は容易であると述べて居るが、これは必ずしも誇張の言ではない、事實日本の都市にある家屋の大部分は木造で紙を張つた窓を持ち風さへあれば火災は恐ろしい速度を以て擴大するのである。

と書いて。

日本の工業都市は空爆容易

日本の工業とこれに從事する人達は殆んど二百哩と離れない二つの地帶に集中されてゐるが、これも空中攻擊に對して極めて危險である、この二つの中で最大なるものは東京……横濱地帶で七百萬の人口を擁し、その四十哩の圈中には、首府と横濱と横須賀の軍港がある。第二の工業地帶は大阪……神戸地帶で、約四百萬の人口がありそこには神戸港と日本最大の商品製造の中心地たる大阪がある。かゝる理由であるから空中戰は日本に對して最も有效なるものである。日本に對して工場及び工廠を爆擊して與へる損害よりも、火災の脅威から來る人心の影響は尙一層重視すべきものである。

筆者はこの米國の軍事評論家デンリンガーと、海軍少佐ガリーの共著である太平洋戰爭卽ちDenlingerpand Gury Warin the Pacific, を讀んでみて現在太平洋における我が赫々たる戰果の實狀に照らして頗る滑稽至極ではあるが、敵米國側としてかやうに考へることは日米戰爭に對し

て左程脱線的なる考へ方ではないと思ふのである。併乍ら事實は全くこの逆行路を進んで、今や我國の戰略的有利の據點と南方の軍事重要資源は悉く我有に歸し、而も我肇國の大理想大精神を顯現せんとする、今次大東亞戰爭の目的に同調せる滿、華、佛印、泰國等との血盟は愈々固く且つ廣漠我本土に約十倍するの占據地域は、戰爭卽ち建設の近代戰の性格に間然するところなく、新しい偉大なる力を以て着々として戰力の培養に傾到しつゝあるのである。さりながら戰ひは所謂連續決戰による長期消耗戰たるの段階に突入しつゝあつて、敵米英も亦愈々腰を据ゑて戰爭態勢を整へつゝある。ルーズヴェルトが千九百四十三年から同四十四年に亙る年こそは米國は豫て其の多くの追隨國に約束したる所謂反擊の年であり、これがためには必要なる軍需品生產の目標が達成されんとするの年であることを指摘して、今年の目標を飛行機十二萬五千臺、戰車七萬五千臺、高射砲三萬五千臺、商船一千萬噸に置いて突入しつゝあると共に。彼は亦戰捷を得るために七百五十萬の陸軍兵力は絕對必要であり、一方海軍も二百三十萬の兵力を目標に着々としてその擴充策を進めてゐるが、兩者合すれば米國の軍兵力は約一千萬に達する云々と着々その實現に邁進しつゝあることは、例ひ米國々內の諸事情は彼れの豪語するが如くに進捗せざるとするも、吾々は決してこれを輕視する譯けには行かないのである。

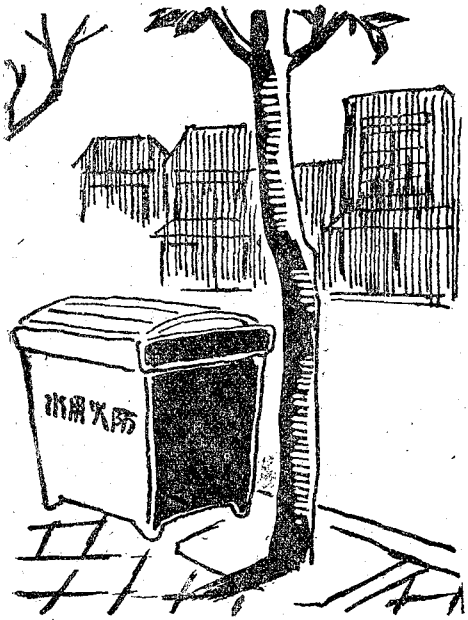
國に報ずる忠誠の念

玆に大東亞戰爭第二年の本年が所謂敵側總反攻の實行さるゝ年として、益々熾烈なる決戰の連續が豫想さるゝと同時に、糺彈なる云はゞ我が本土に對しても敵の强力なる航空機が飛來して、何時何所に爆彈燒夷彈等の投下は勿論、有ゆる手段を以て攻擊し來るとの覺悟を持たねばならぬ。而してかゝる國民の覺悟は既に一昨年十二月八日に於いて對米英宣戰に關する大詔を拜したる、その瞬間に既に吾々の銘肝實踐され來つたものであると共に、國に報ずる忠誠の念に於ては世界に冠絕する我國民獨特の氣魄の發露に外ならぬのである。さり乍ら現在吾々は前線に在つて任務以

上の重大使命を完遂しつゝある將兵に思ひを致すと、尙ほ一層自ら顧みて恥なき十分の態度を堅持してゐる乎、敵國擊破のために溢るゝ如き戰力の源泉が常に不撓の國民的精神の凝集にあることを顧みるとき、改めて反省すべき何物かの多くのものがあることを感ずるのである。亦一面に於て所謂決戰體制下の指導者達も克く國民を指導し、以てこの重大任務に當らねばならないのである。佐上氏はその過去の官歷に於て果た又現在の地位たる大日本防空協會の國家樞要の仕事に關與して、會長東條英機氏を始め副會長島田海相、後藤文夫氏等を補佐して海軍中將和田專二氏並に陸軍中將河村孝輔氏と共に常務理事として國家のために貢獻するところ多大であることは今更繰返して云ふまでもないが、筆者は尙一層氏の健在と奮鬪を祈つて止まない次第である。

防空協會と佐上氏

佐上氏はその略歷の示す如く、帝大を出て間もなく身を官界に投じて以來、本省に入つては樞要なる地位を占め、また出でゝは地方の長官として國家行政の現地第一線に立ちて到るところに、その行政的手腕を發揮して顯著なる功績を擧げてゐるが、これは筆者が曩に氏の聲咳に接したときに……一體官界の仕事といふものは一般的には理性が主となつて働くのであるが、私が官界で地方の仕事をやつて見て一般大衆は理性中心の官僚的よりは、實際は感情が非常に強い力を以て働いて居ることを痛感したのである。一般官界は理性に重きを置いて感情を無視して居るが、感情もよい感情を持たせてやつて行くことが必要だと思ふたのである云々……と語られたのに徵しても氏は地方統治については恐らくは我國政治の根本理念たる溫情德治の大本を常に頭に置いて行政の衝に當られた結果であると思はれるのである。かやうに氏は行政についてはその卓越せる識見と抱負を持ち、加ふに行政事務には頗る錬達してゐる人であるが、亦その一面に於いては經濟方面についても豐富なる智識を有してゐる、これは嘗て氏は北海道長官時代に北方開發……拓殖に盡したることに依ても判明するのであ

る。茲では紙數に制限があるから省略するが、氏の北海道開發の跡を看ると例へば開發道路の敷設と云ひ、其他種々なる上に於てその着眼點は非凡であり、事實現在に於て多大なる實蹟の擧がつてゐることは敬服に値するのである。現に我が道路改良會に於ても國家的見地よりして道路改良の忽せになすべからざるに着眼して、創立にも力を致し更に其後は首腦部の一人として運營以て使命達成に努力せられつゝあることは吾々の深く感謝するところである。茲に筆者の見たる氏を糺彈なく高批することをと寛度なる氏が許さるゝならば、氏は天縱傑邁の姿を以て宇宙を籠蓋するの量ありや否やは一寸と疑問とするところであるが、氏は度量大にして細事には拘泥せず、而も頭腦は明晰にしてその該博なる識見と抱負を以て確固不動の信念の下に事に當つて善處するやうであり、而もその高潔なる人格と親み易き品性は知らず〳〵の間に人を魅力するの慨あつて、加ふに勤勉勇氣を備へて實力豐富を抱持する人物たることを感じたのである。而して現下決戰體制下に於ては、殊に氏の

如き人物は國家が最も要求するところの所謂人材の一人たることは疑ふの餘地がないのである。さればこそこの超常時下に於て最も緊要なる國家的重要機關たる大日本防空協會に入つて所謂總力體制の國民指導啓發の任に當られて居ることは、筆者の誠に意を强くするところである。因みに筆は脫線しながら隨筆的に書いたのであるから勿論文責筆者にあることを斷つて置く次第である。